

ECN100 経済理論 (ミクロ)

1年 3,4クォーター

担当教員 飯田 健志

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 水曜日・2時限

授業概要

本講義の目標は、消費者行動や企業行動の分析を通じて、経済学の基本的な考え方を理解するために必要なミクロ経済学の基礎理論を習得することである。経済学は、人々の生活を豊かにするための学問であり、限りある貴重な資源をいかにしてムダなく配分するか、という問題を考える。このとき「市場」というものが重要な役割を果たす。本講義では、「完全競争市場は、効率的な(ムダのない)資源配分を実現する」という市場の役割、および、市場経済が機能しない状況下での政府の役割について、ミクロ経済学の基礎理論を用いて理解を深める。

到達目標

学生は、

- (1) 価格の決め方について理解する
- (2) 市場の役割について理解する
- (3) 政府の役割について理解する

期待される効果

経済学的な考え方が身に付く

身近な経済問題について、ミクロ経済学の基礎理論を用いて議論できるようになる

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

教科書

スティーブン・レヴィット他 (2017) 『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』 東洋経済新報社

参考文献

芦谷政浩 (2009) 『ミクロ経済学』 有斐閣

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』 日本評論社

授業の方法

板書を中心に講義を進めるが、必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績

20% 課題

80% 期末試験

授業スケジュール

第1回：

ミクロ経済学とは？

第2回：

価格が下がることで売り上げが増えるのはどんなときか？

第3回：

消費者の満足度をどのようにして表現するか？ (消費者行動の基礎 1)

第4回：

最適な消費計画はどのようにして決まるのか? (消費者行動の基礎 2)

第 5 回 :

最適消費計画と政策の評価 (消費者行動の基礎 3)

第 6 回 :

最適消費計画と需要曲線 (消費者行動の基礎 4)

第 7 回 :

労働供給曲線はどんな形状か? (消費者行動の応用)

第 8 回 :

さまざまな費用概念 (企業行動の基礎 1)

第 9 回 :

利潤最大化と供給曲線 (企業行動の基礎 2)

第 10 回 :

企業の新規参入が止まるのはどんなときか? (長期の企業行動)

第 11 回 :

社会的に最も望ましい状態とは? (部分均衡分析 1)

第 12 回 :

政府の市場介入は望ましいか? (部分均衡分析 2)

第 13 回 :

パレート効率性とは? (一般均衡分析 1)

第 14 回 :

市場は万能である (一般均衡分析 2)

第 15 回 :

いつでも市場は万能か? (市場の失敗)

事前・事後学習

予習 : 教科書の該当する章を予習してくること (1 時間程度)

復習 : 毎回課題を課すので、課題を解きながら、授業内容を復習し疑問点を整理すること (1 時間程度)